

熊本県中南部地域の 二型アクセント諸方言の分布

山田高明
(一橋大学大学院/NINJAL)

2021年9月26日、日本音声学会

本発表の概要

- 熊本県中南部地域の、特に長崎タイプと鹿児島タイプの境界地域の二型アクセント体系の分布を報告
- 長崎タイプと鹿児島タイプの分布境界は、従来の見解の想定（平山1951）より南に位置する
- 問題の境界よりもはるか南に位置する葦北郡芦北町計石に長崎タイプが、鹿児島タイプに囲まれる形で分布する

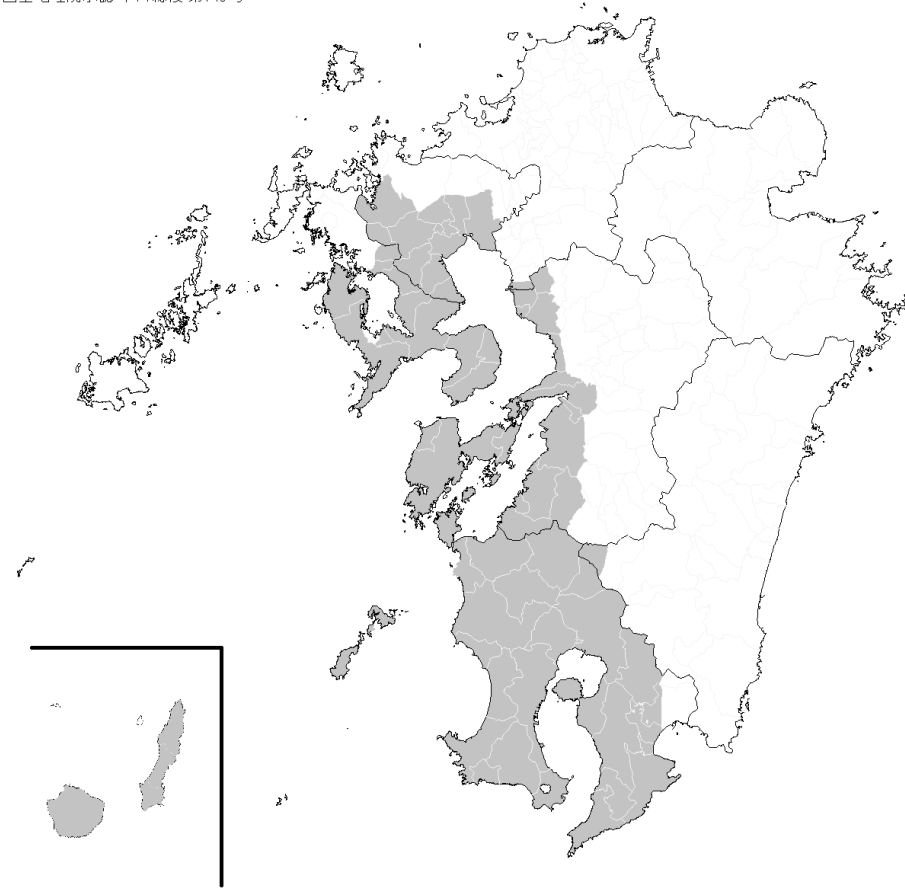
発表の流れ

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査概要
4. 「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定
5. 「鹿児島タイプ」地域に見られる「長崎タイプ」のアクセント体系
6. まとめ

はじめに

はじめに

国土地理院承認 平14総復 第149号



- 二型アクセント体系

- ▶ 語の長さに関わらず、A型とB型の二つのアクセント型が対立する

はじめに

- 西南部九州の二型アクセント体系は、A型のピッチパターンに基づいて「長崎タイプ」と「鹿児島タイプ」の大きく二つに類型化できる（木部2012）

(1) 長崎タイプの例：天草市本渡方言（木部2012）

	A型	B型
1モーラ名詞	[ハ]（葉）	[ハ（歯）
2モーラ名詞	[ハ]ナ（鼻）	[ハナ（花）
3モーラ名詞	オ[ナ]ゴ（女）	[オトコ（心）
4モーラ名詞	ア[マ]ザケ（甘酒）	[ニワトリ（鶏）
5モーラ名詞	ニ[ギ]リメシ（握り飯）	[イナビカリ（稲光）

はじめに

- 西南部九州の二型アクセント体系は、A型のピッチパターンに基づいて「長崎タイプ」と「鹿児島タイプ」の大きく二つに類型化できる（木部2012）

(2) 鹿児島タイプの例：鹿児島市方言（木部2012）

	A型	B型
1音節名詞	[ハ]（葉）	[ハ（歯）
2音節名詞	[ハ]ナ（鼻）	ハ[ナ（花）
3音節名詞	サ[ク]ラ（桜）	ココ[ロ（心）
4音節名詞	カマ[ボ]コ（蒲鉾）	アサガ[オ（朝顔）
5音節名詞	アバラ[ボ]ネ（肋骨）	ハルヤス[ミ（春休み）

先行研究

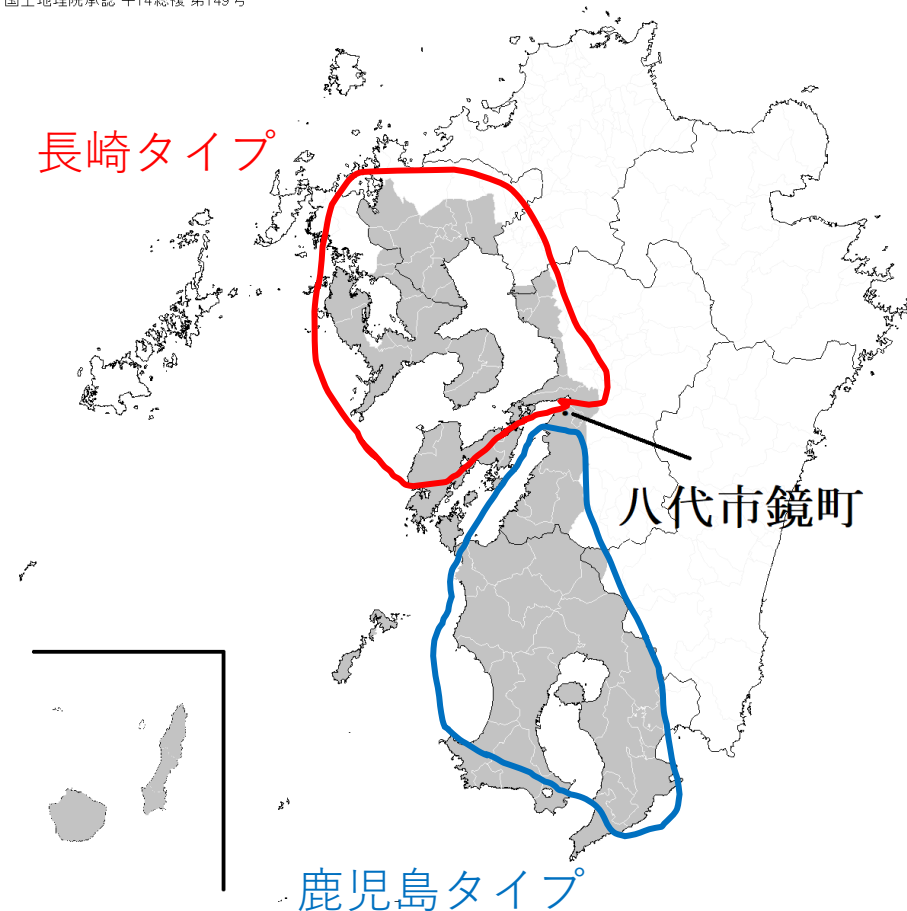
先行研究

- 長崎タイプと鹿児島タイプの地理的分布に関する平山（1951:55）の指摘

- (3) a. 熊本県北方に「長崎タイプ」、熊本県南方に「鹿児島タイプ」が分布する
- b. 両者の境界は現熊本県八代市鏡町以北にある

先行研究

国土地理院承認 平14総復 第149号



- (3a)の指摘については、平山以降の研究により、概ね妥当であることがわかっている
- **長崎タイプ**：熊本県宇城市三角、熊本県玉名市、佐賀県中南部、長崎県長崎市など
- **鹿児島タイプ**：熊本県葦北郡田浦、鹿児島県鹿児島市など

先行研究

国土地理院承認 平14総復 第149号



- (3a)の指摘については、平山以降の研究により、概ね妥当であることがわかっている
- 一方、平山（1951）は鏡町よりも北に位置する熊本県三角町本村に両タイプの間間的な体系があることも記述（詳細は山田2019も参照）

先行研究

(3b) 両者の境界は現熊本県八代市鏡町以北にある

- 平山（1951）では鏡町およびその周辺の具体的なアクセント体系の記述は無い
- 平山以降の熊本県の諸方言のアクセント体系の詳細な調査は十分に行われておらず、両タイプの境界地域の体系の詳細は未だ不明

調査概要

調査概要

- 現地にて2018年から2020年にかけて断続的に実施
- 対面による調査票読み上げ調査
 - 類別語彙を中心とする1モーラ名詞（8語）、2モーラ名詞（40数語）、3モーラ名詞（50数語）、複合名詞（14語）、それらを用いた短文

調査概要

国土地理院承認 平14総複 第149号



• 話者情報

	生年	性別	外住歴
八代市鏡町上鏡	1956	男性	無し
八代市鏡町鏡村	1940	男性	無し
八代市千丁町	1933	男性	無し
葦北郡芦北町計石	1936	女性	無し
	1937	女性	無し
葦北郡芦北町湯浦	1937	男性	無し

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定



「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 鏡町上鏡方言

	A型		B型	
	単独形	+1モーラ助詞	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]]~○	[○]-▽	○	○[-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽	[○]狭	○[狭-▽ (○[狭]-▽)
			○[広	○[広]-▽ (○[広-▽)
3モーラ名詞	○[○]○	○[○]○-▽	○[○]狭	○[○狭-▽
			○[○]広	○[○広]-▽
4モーラ名詞	○[○]○○	○[○]○○-▽	○[○○○	○[○○○-▽

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

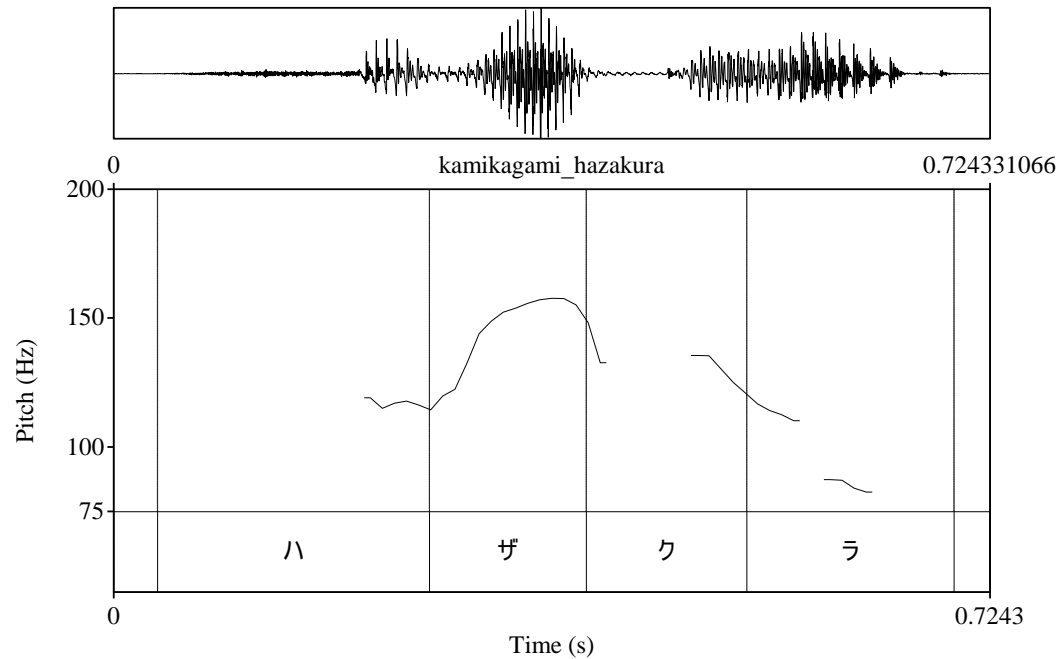
- 鏡町上鏡方言

	A型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]~○	[○]-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○]○-▽
4モーラ名詞	○[○]○○	○[○]○○-▽

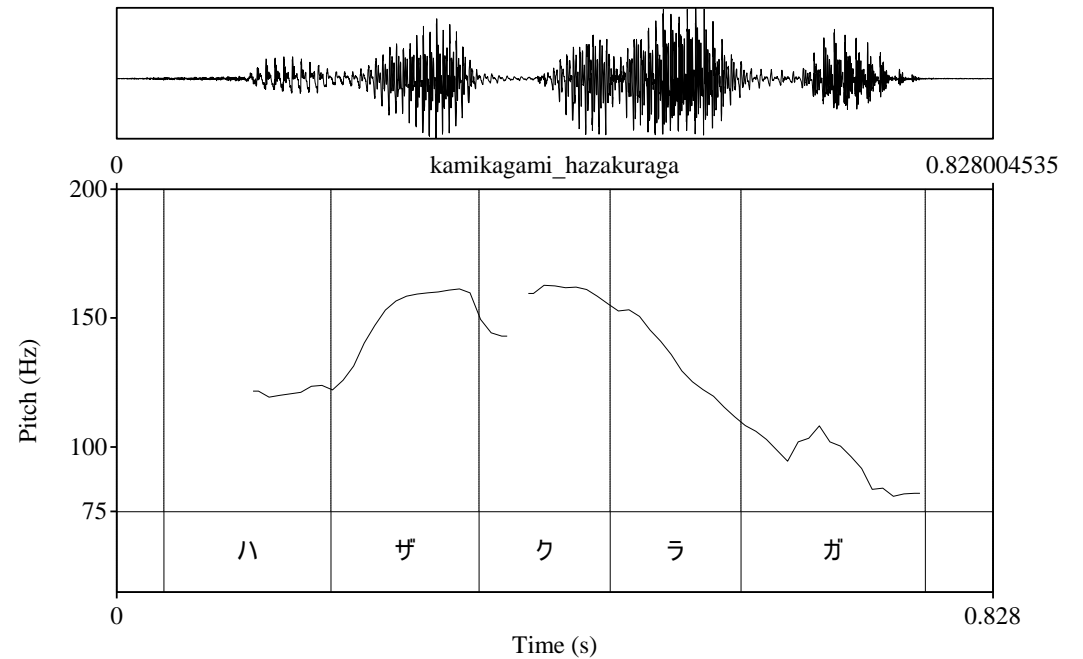
- A型はアクセント単位の頭から数えて2モーラ目の直後にピッチの下降がある
- A型の特徴から「長崎タイプ」の二型アクセント

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 上鏡方言の二型アクセントの実現



4モーラ名詞A型：ハ[ザ]クラ「葉桜」



4モーラ名詞A型+ガ：ハ[ザ]クラガ「葉桜が」

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

• 鏡町上鏡方言

	B型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	○	○[-▽]
2モーラ名詞	[○]狭	○[狭-▽] (○[狭]-▽)
	○[広	○[広]-▽ (○[広]-▽)
3モーラ名詞	○[○]狭	○[○狭-▽]
	○[○広	○[○広]-▽
4モーラ名詞	○[○○○	○[○○○-▽]

- B型は2モーラ名詞と3モーラ名詞で語末の母音の種類でアクセント型の実現が変わる
- 単独形なら、語末が狭母音のときにピッチ下降が現れる
- 助詞付きでは、語末が広母音のときにピッチ下降が現れる

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 鏡町鏡村方言

	A型		B型	
	単独形	+1モーラ助詞	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]]~○	[○]-▽	○	○[-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽	[○]狭	○[○]-▽
			○[広	
3モーラ名詞	○[○]○	○[○]○-▽	○[○]狭	○[○○]-▽
			○[○]広	
4モーラ名詞	○[○]○○	○[○]○○-▽	○[○○○	○[○○○]-▽

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 鏡町鏡村方言

	A型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]~○	[○]-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○]○-▽
4モーラ名詞	○[○]○○	○[○]○○-▽

- A型はアクセント単位の頭から数えて2モーラ目の直後にピッチの下降がある
- A型の特徴から「長崎タイプ」の二型アクセント

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

• 鏡町鏡村方言

	B型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	○	○[-▽]
2モーラ名詞	[○]狭	○[○-▽]
	○[広]	
3モーラ名詞	○[○]狭	○[○○-▽]
	○[○広]	
4モーラ名詞	○[○○○]	○[○○○-▽]

- B型は2モーラ名詞と3モーラ名詞の単独形で語末の母音の種類でアクセント型の実現が変わる
- 単独形なら、語末が狭母音のときにピッチ下降が現れる

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 千丁町方言

	A型		B型	
	単独形	+1モーラ助詞	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]	[○]-▽	○	○[-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽	○[○	○[○-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○○]-▽	○[○○	○[○○-▽
4モーラ名詞	○[○○]○	○[○○○]-▽	○[○○○	○[○○○-▽

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

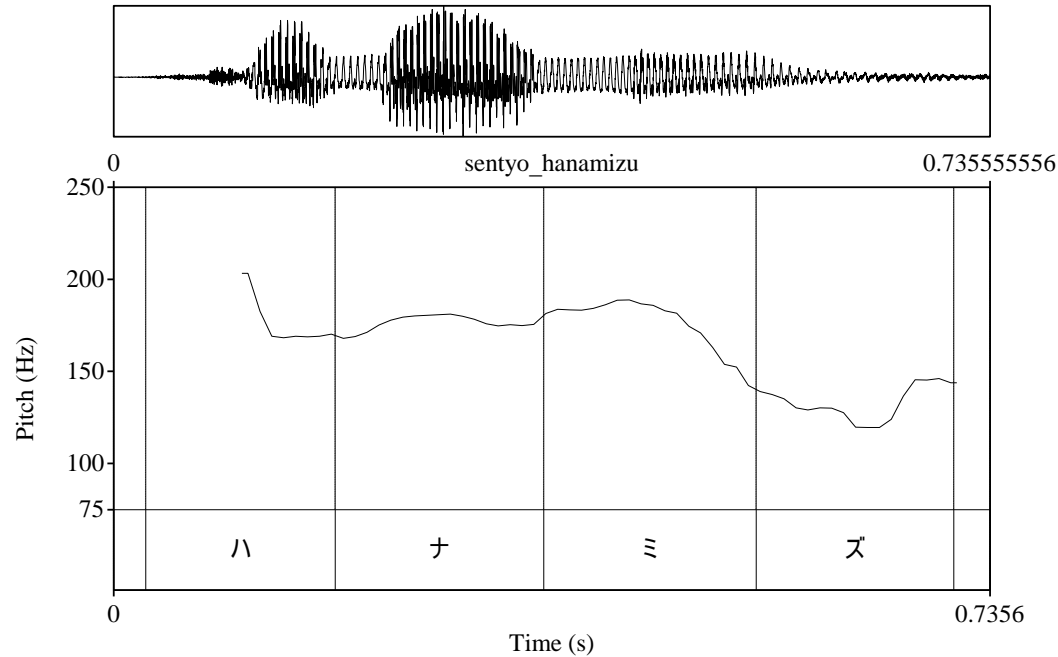
- 千丁町方言

	A型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]	[○]-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○○]-▽
4モーラ名詞	○[○○]○	○[○○○]-▽

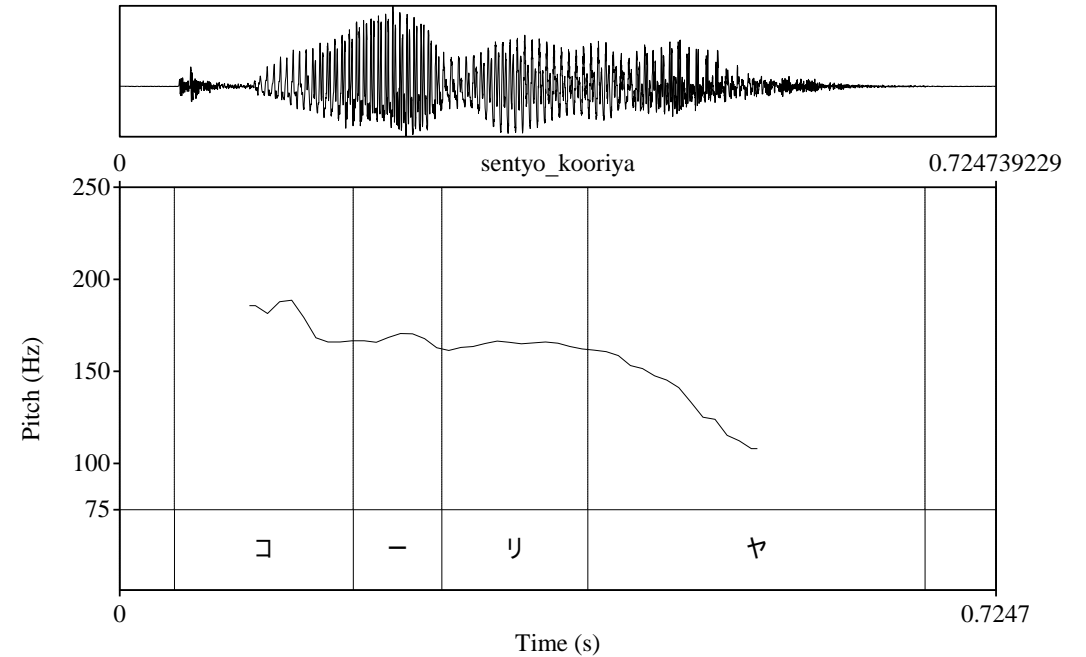
- A型はアクセント単位の後ろから数えて2モーラ目の直後にピッチの下降がある
- A型の特徴から「鹿児島タイプ」の二型アクセント

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

- 千丁町方言の二型アクセントの実現



4モーラ名詞A型：ハ[ナミ]ズ「鼻水」



4モーラ名詞A型：[コーリ]ヤ「氷屋」

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

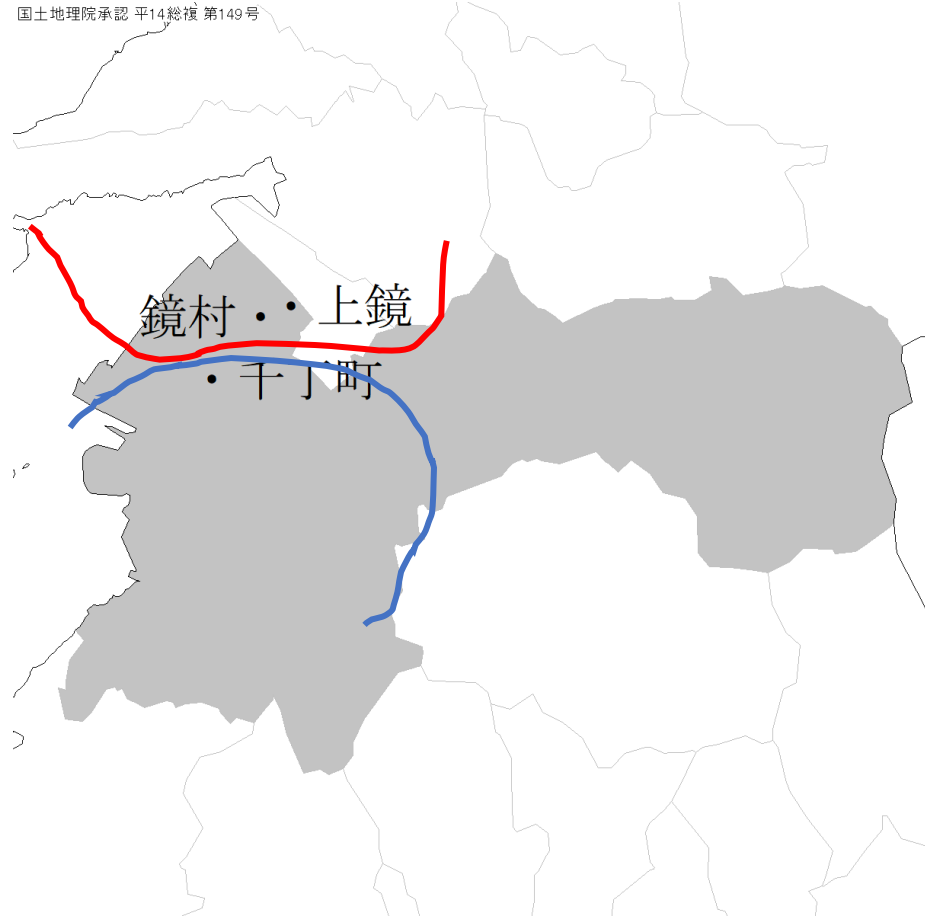
- 千丁町方言

	B型	
	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	○	○[-▽
2モーラ名詞	○[○	○[○-▽
3モーラ名詞	○[○○	○[○○-▽
4モーラ名詞	○[○○○	○[○○○-▽

➤ B型は非下降

「鹿児島タイプ」と「長崎タイプ」の境界の特定

国土地理院承認 平14総復 第149号



- 平山（1951）の指摘
 - ▶ 鏡町以北に長崎タイプと鹿児島タイプの境界がある
- 本発表の調査結果
 - ▶ 鏡町（鏡村・上鏡）に長崎タイプが、その南に位置する千丁町に鹿児島タイプが分布する

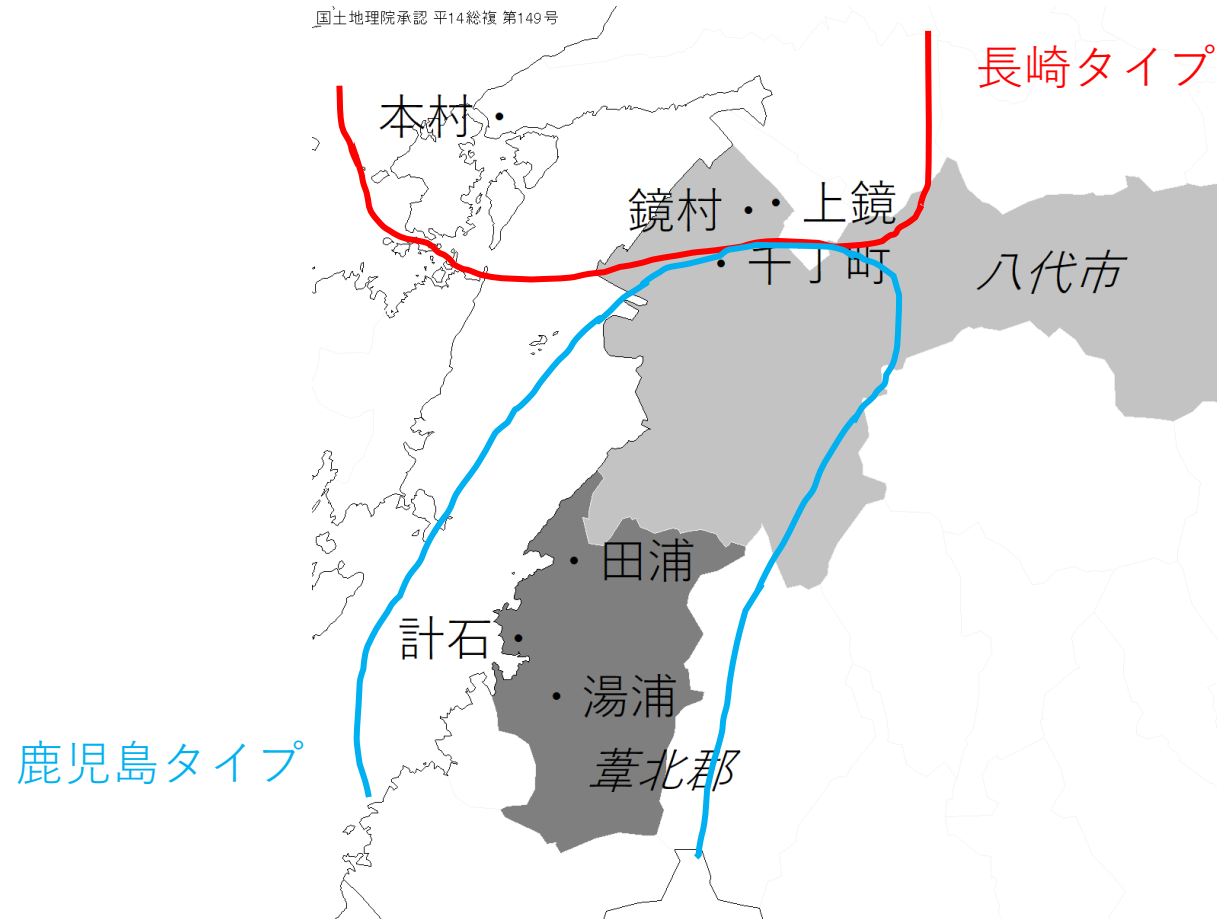
「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 本節で述べること

- 平山（1951）は、長崎タイプの分布領域に位置する熊本県三角町本村に両タイプの中間的な体系があることを記述；八代市付近を境界に両タイプが南北に分布する従来の枠組みの妥当性の再検討の示唆
- 山田（2018）およびその後の調査から鹿児島タイプの分布領域に位置する葦北郡芦北町計石に長崎タイプの二型アクセントがあることを報告

「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系



山田高明 熊本県中南部地域の二型アクセント諸方言の分布

「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 先行研究の記述

➤平山（1951）は、八代市および葦北郡全域に鹿児島タイプの一種である「葦北音調」が分布すると記述

	2モーラ名詞	3モーラ名詞	4モーラ名詞	5モーラ名詞
A型	[○]○	○[○]○	○[○○]○	○[○○○]○
B型	○[○	○[○○	○[○○○	○[○○○○

「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 先行研究の記述

▶松森（2018）は葦北郡芦北町田浦方言について、A型はアクセント単位の末尾に下がり目があると記述

	2モーラ名詞	3モーラ名詞	4モーラ名詞	5モーラ名詞	6モーラ名詞
A型	[○]○	[○○]○	[○○○]○	[○○○○]○	[○○○○○]○
B型	○[○]	[○]○[○]	[○]○○[○]	[○○]○○[○] [○○○]○[○]	[○○○]○○[○] [○○○○]○[○]

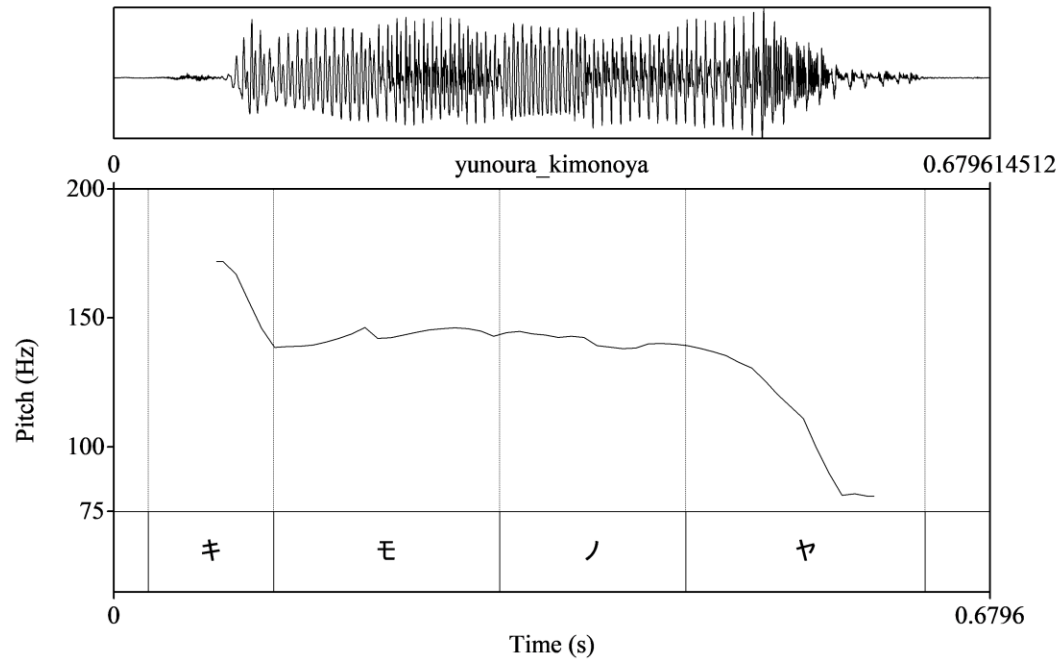
「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 発表者の調査：葦北郡芦北町湯浦
 - A型はアクセント単位の末尾に下がり目がある
 - 鹿児島タイプの二型アクセント体系

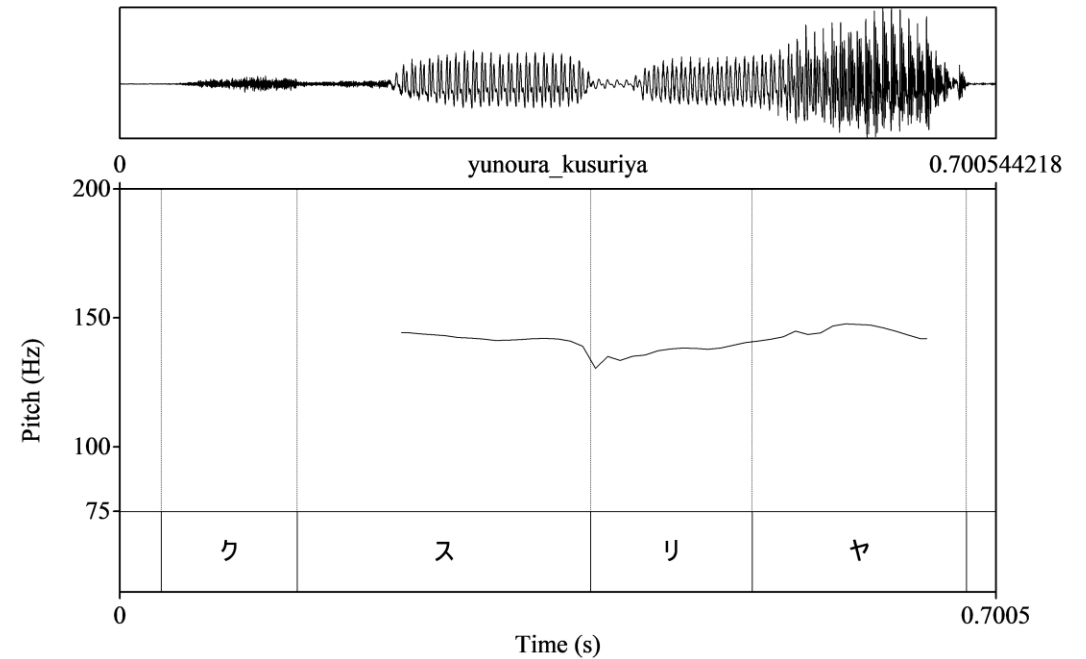
	A型		B型	
	単独形	+1モーラ助詞	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]]	[○]-▽	○	○[-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽	○[○	○[○-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○○]-▽	○[○○	○[○○-▽
4モーラ名詞	○[○○]○	○[○○○]-▽	○[○○○	○[○○○-▽


「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 湯浦方言の二型アクセントの実現



4モーラ名詞A型：キ[モノ]ヤ「着物屋」 



4モーラ名詞B型：クスリ[ヤ]「薬屋」 

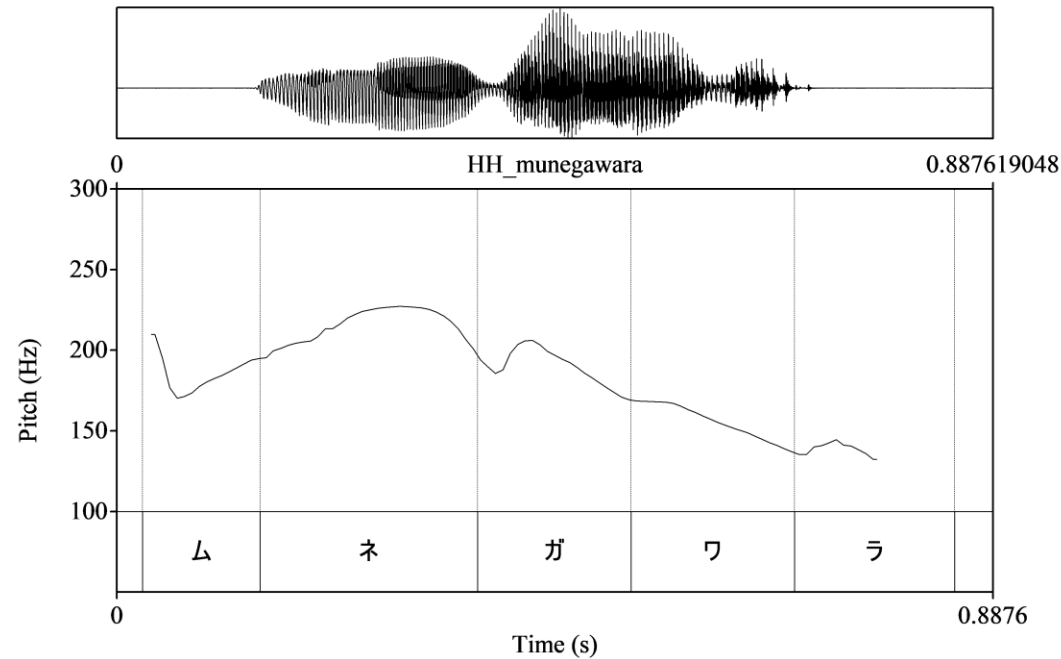
「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 山田（2018）およびその後の発表者の調査：葦北郡芦北町計石
 - ▶ A型はアクセント単位の頭から数えて2モーラ目にピッチの下降がある
 - ▶ 長崎タイプの二型アクセント体系

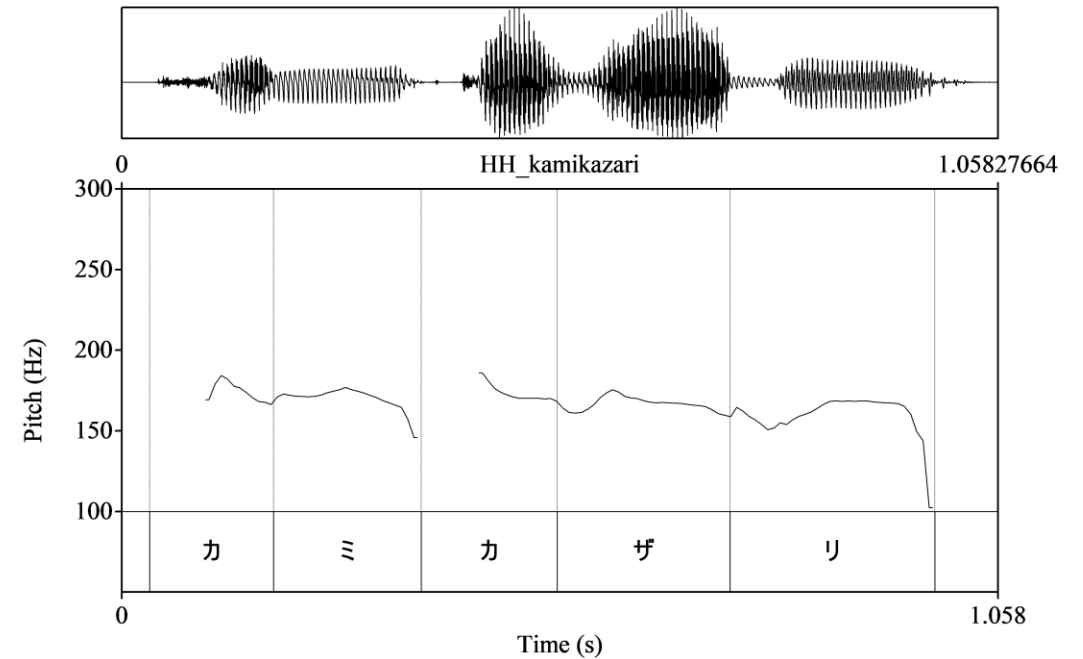
	A型		B型	
	単独形	+1モーラ助詞	単独形	+1モーラ助詞
1モーラ名詞	[○]]	[○]-▽	○	○[-▽
2モーラ名詞	[○]○	○[○]-▽	○[○	○[○-▽
3モーラ名詞	○[○]○	○[○]○-▽	○[○○	○[○○-▽
4モーラ名詞	○[○]○○	○[○]○○-▽	○[○○○	○[○○○-▽

「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系

- 計石方言の二型アクセントの実現



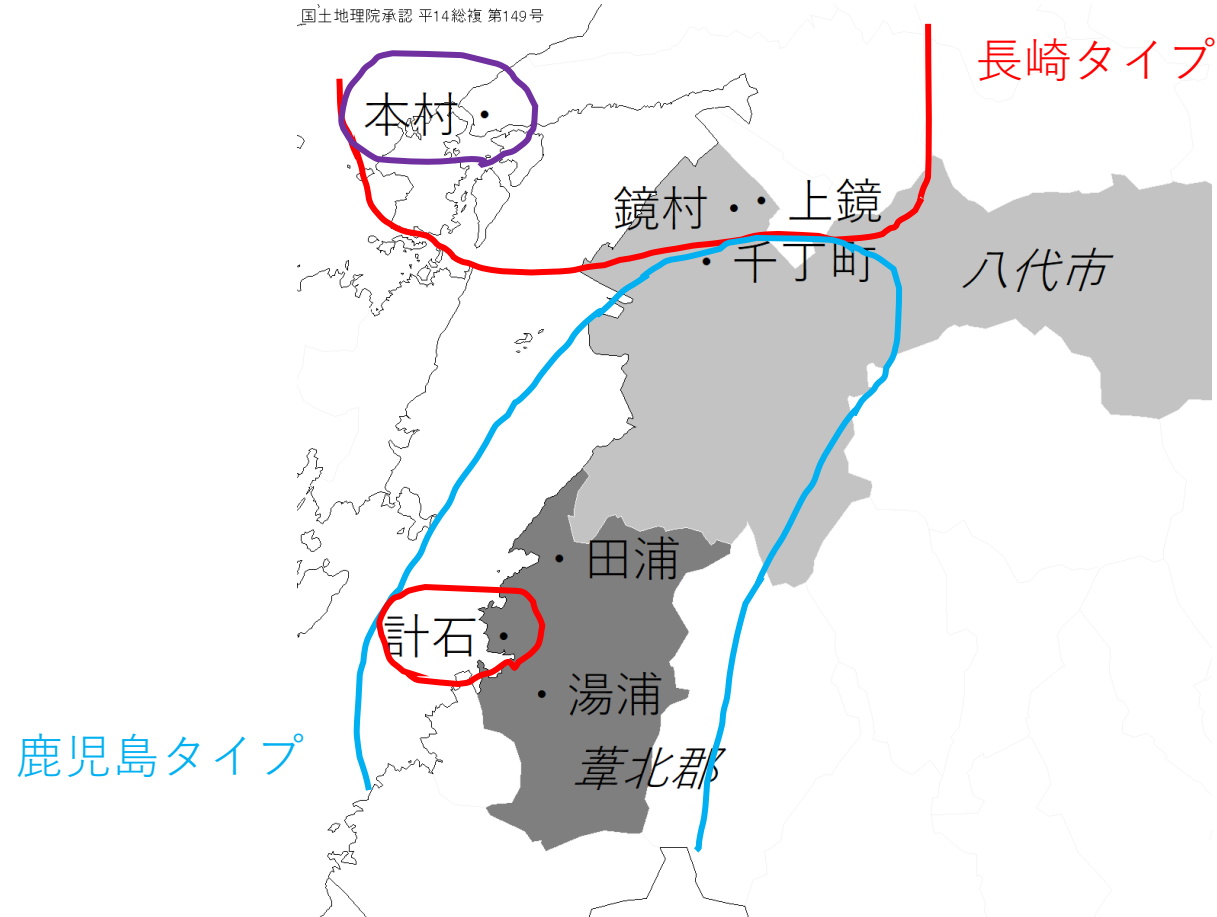
5モーラ名詞A型：ム[ネ]ガワラ「棟瓦」



5モーラ名詞B型：カミカザリ「髪飾り」



「鹿児島タイプ」地域に見られる 「長崎タイプ」のアクセント体系



まとめ

まとめ

- 長崎タイプと鹿児島タイプの分布境界は、八代市鏡町と八代市千丁町の間であり、鏡町以北とする従来の見解の想定（平山1951）よりも南に位置する
- 問題の境界よりはるか南に位置する葦北郡芦北町計石に長崎タイプが、鹿児島タイプに囲まれる形で分布する

まとめ

- 先行研究

- ▶ 問題の境界よりも北に位置する熊本県三角町本村に両タイプの中間的な二型アクセント体系が分布（平山1951、山田2019）
- ▶ 長崎県西彼杵郡旧外海町に両タイプのどちらにも属するとも断定できない二型アクセント体系が分布（松森2016）

- これらのことから、長崎タイプと鹿児島タイプの境界は、領域を南北に分ける1本の線で単純に表せるものではない

まとめ

- 今後の課題

- ▶ 音調の動態の定量的な分析（午前のワークショップA）

- ✓ 上昇位置や下降位置など変動が激しい方言がある

- ▶ 複合語、外来語など

謝辞

調査にご協力くださった皆様に厚くお礼を申し上げます。
本発表はJSPS 科研費17K02689、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」、同「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」による研究成果の一部です。

参考文献

- 木部暢子 (2000) 『西南部九州二型アクセントの研究』 東京：勉誠出版.
- 木部暢子 (2012) 「西南部九州二型アクセントの特性の比較 —助詞・助動詞のアクセントを中心として—」 『音声研究』 16:1, 80-92.
- 坂口至 (2001) 「長崎方言のアクセント」 『音声研究』 5:3, 33-41.
- 崎村弘文 (2006) 『琉球方言と九州方言の韻律論的研究』 東京：明治書院.
- 平子達也・五十嵐陽介 (2016a) 「熊本県玉名市方言のアクセントについての初期報告」 『実践女子大学文学部紀要』 58:1-22.
- 平子達也・五十嵐陽介 (2016b) 「佐賀県中南部諸方言の二型アクセントについて」 『実践國文學』 89, 107-69.
- 平山輝男 (1951) 『九州方言音調の研究』 東京：学界之指針社.
- 松浦年男 (2014) 『長崎方言からみた語音調の構造』 東京：ひつじ書房.
- 松森晶子 (2016) 「長崎県西彼杵郡 旧・外海町の二型アクセント体系」 『日本女子大学紀要』 66, 31-46.
- 松森晶子 (2018) 「熊本県葦北郡芦北町田浦方言の二型アクセント体系」 『日本女子大学紀要』 67, 15-37.
- 山田高明 (2018) 「熊本県葦北郡計石方言のアクセント体系と複合名詞のアクセント」 日本音声学会第337回研究例会発表資料.
- 山田高明 (2019) 「熊本県宇城市三角地域のアクセント」 『筑紫日本語研究2018』 14-24